

JCMA 報告

イタリア SAMOTER 2008 出張報告

業務部

出張者：天野国際業務担当部長
出張期間：2008年3月4日（火）－10日（月）
出張先：イタリア ベローナ市
出張目的：SAMOTER 2008 展示会（3月5日－9日）
にブースを出展し、協会・研究所の紹介を行った。

1. 開催概要

主催者：VERONAFIERE（ベローナ展示会協会）
COMAMOTER（イタリア建設機械工業会）
開催期間：2008年3月5日（水）－9日（日）
会場：VERONAFIERE EXHIBITION CENTER（ベローナ国際展示場）
会場面積：約130,000 m²（対2005年比 13.5%増加）

出展者数：1,026社（内海外約300社）（対2005年比3.5%増加）

来場者数：100,000人以上

本展示会は欧州で、BAUMA、INTERMATに次ぐ展示会であり、イタリアを始め欧州各国からの出展があった。

会場も今回は屋内の全ての建物及びデモエリアも充実し、大手メーカーは広いスペースを確保し、趣向を凝らした展示、アトラクションを行っていた。

初日の出足が悪く、通常一番込み合う初日開場直後は若干先行き不安もあったが、尻上がりに出足は良くなり、金曜日後半はかなりの混雑状態となった。

2. イタリア貿易振興会との面談

イタリアは今、政府機関であるICE「イタリア貿易振興会」が日本に対し、イタリア製品を拡販すべくプロジェクトを進めており、建設機械関係もその対象としてあげられている。

今回、現地にて資本財担当者と面談を行い、CONETへの積極的な勧誘を行った。

先方は当方から事前にインプットしておいた日本代表部の報告を熟知しており、前向きな反応があった。

まず、日本市場のスタディを行い、その結果によりCONETへのイタリアパビリオンの参加を決める。日本市場に対しては、従来イタリアメーカーは消極的であったが、このところ特長あるイタリア製品を売り込めるとの期待が高まってきているとのことであった。当方からも、完成品ではなく、アタッチメント、部品、コンポ、ニッチ商品に焦点を絞ることで、日本での拡販の可能性が高くなると強調しておいた。 JCMA



会場風景



特長あるイタリア製品の例



デモ風景

日本企業



古河ロックドリル ハニックス



IHI



日立建機



いすゞ



KOBELCO



コマツ





久保田



MAX



三菱



中山鉄工所



日産



NPK



竹内製作所



TOPCON



ヤンマー



鶴見製作所



日本建設機械化協会

(文責：JCM 業務部 国際業務担当部長 天野 裕一)

大口径岩盤削孔工法の積算

——平成 20 年度版——

■内 容

平成 20 年度版の構成項目は以下のとおりです。

- (1) 適用範囲
- (2) 工法の概要
- (3) アースオーガ掘削工法の標準積算
- (4) ロータリー掘削工法の標準積算
- (5) パーカッション掘削工法の標準積算
- (6) ケーシング回転掘削工法の標準積算
- (7) 建設機械等損料表
- (8) 参考資料

● A4 判／約 240 頁 (カラー写真入り)

● 定 価

非会員：5,880 円 (本体 5,600 円)

会 員：5,000 円 (本体 4,762 円)

※学校及び官公庁関係者は会員扱いとさせていただきます。

※送料は会員・非会員とも

沖縄県以外 450 円

沖縄県 340 円 (但し県内に限る)

●発刊予定 平成 20 年 5 月

社団法人 日本建設機械化協会

〒105-0011 東京都港区芝公園 3-5-8 (機械振興会館)

Tel. 03 (3433) 1501 Fax. 03 (3432) 0289 <http://www.jcmanet.or.jp>